

浮力コントロールチャート



補足事項

- ”体の浮力は最小にする。”とは、複式呼吸で息を吐き、腹筋も使用してお腹を凹ませ、さらに体を縮ませて体の体積を最小にすることです。
自然体との浮力差は追加ウエイト③で補正する。多少の空気は肺内部に残存させても良い。
- 中性浮力の位置は、体の大きさを変化させて可変します。当然、水圧平衡によるBCDの大きさの変化も考慮する。
- 呼吸をしても体の大きさに変化が少ない体質の人は中性浮力の位置調整に腹筋を多用します。
- 全ての人にお勧めする方法として、腹筋を使用してお腹を膨らましたり、凹ましたりすれば、呼吸には関係なく浮力の調整がある程度出来るはずです。
- ◇追加ウエイト①は、浮力Aを全部捨てたつもりでも排出できない給気分があることを考慮して設定した方が良いでしょう。
- ドライスーツへの給気ゼロ、BCDへの給気ゼロの時、空気消耗によるエアータンクの浮力が加算され、浮力の合計が”追加ウエイトの総重量”を上回ると潜行が不能となることがあるので注意する。
- ドライスーツへの給気を多く望みたい時には、追加ウエイトの重量①を多めに設定する。
- 浮力の制御が不能となる場合があるので、必ず、圧縮空気の重量分は加算しておかなければならない。
- BCD同様にドライスーツ内の空気も水圧平衡により膨張するので浮上時は常に排出を必要とする。

※ウエイト無し状態で、全装備を着用した時の重量と浮力は、計測する必要があります。